

I. 平成21年度実施計画書について

1. 国際科学技術コンテスト名称

ロボカップ 2009 グラーツ世界大会 ジュニア部門

2. 国内大会名称

ロボカップジャパンオープン 2009 大阪 ジュニア部門
各ブロック大会(2次予選)、各ノード大会(1次予選)

3. 実施体制

(主催)ロボカップジャパンオープン 2009 大阪開催委員会 (特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会、大阪市より構成)

各大会実行委員会

(共催) 社団法人人工知能学会、社団法人日本ロボット学会

社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門

(後援) 文部科学省、経済産業省、日本ロボット工業会、(社)関西経済連合会、大阪商工会議所

4. 主任者

特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会

(代表者役職名、代表者名) 会長 松原 仁

5. 国際科学技術コンテストの概要

主催 The RoboCup Federation、各大会開催委員会

趣旨 14歳以下のプライマリと18歳までのセカンダリに分類される。自律型ロボットを各自考案・作成し、サッカー・レスキュー・ダンスの3部門のいずれかに参加する。ジャパンオープン、世界大会では他のチームと組んでスーパーチームという大きな集合を形成させ、コミュニケーション能力や協調性を育む。

回数 年1回

参加国数 40カ国

全参加者数 1025チーム

大会実施内容等 ロボカップは、ジュニア部門(小学3年生程度以上18歳まで)からシニア部門(世界のトップクラスのロボット学者・大企業・大学が参加)まで同時に開催される唯一の科学技術コンテストである。RoboCupSoccer、RoboCupRescue、RoboCupJuniorの3つのドメインから成り、Humanoid型やSimulation型など最先端のロボットによるリーグがある。

RoboCup2009Grazについては、<http://www.robocup.org/02.html> を参照ください。

国際科学技術コンテスト参加の目的

現在から近未来において、非常に高い需要が見込まれ部品をたくさん取り扱うロボットは、ものづくりの象徴となっている。教育的には、情報・電子技術・機械工学など多岐にわたる技術や数学・物理を学べるすぐれた教材である。これらを用いて、次世代を担う人材の発掘と育成を目指す。

6. 国際科学技術コンテストに向けた実施内容

- (1) 国際大会（ロボカップ 2009 グラーツ・ジュニア部門）への派遣
- (2) 世界大会参加者への事前研修
マルチチームやウェルカムパーティでの英語によるコミュニケーションのとり方や海外での注意事項、治安状態などのガイダンス
- (3) 次年度への強化選手合宿
全国から熱意のある選手を集め、世界大会出場のロボット技術やコミュニケーション力を養成する。
- (4) 国内代表予選（ロボカップ 2009 大阪ジュニア部門）の開催
- (5) 事前選抜大会（ブロック大会、ノード大会）の開催
ブロック・ノード数を増加し、より多くの生徒児童に科学教育の機会を与える。
- (6) 審判講習会の開催
指導者の育成を目指す。審判講習 DVD も作成
- (7) 普及体験教室の開催
より多くの児童生徒・保護者・教育者が参加できるように各地で行う。
世界大会の様子などを記録した普及用 DVD も作成
- (8) 教材作成
審判用 DVD の作成、新年度ルールの翻訳
- (9) 広報の充実
チラシの作成・配布、HP の充実により、アクセスの悪い地域の生徒児童にも情報を提供する。申し込みも HP を活用し、地域格差をなくす。将来的には e-learning による技術指導も検討する。

8. 国際科学技術コンテストに対する参加活動

(1) 国際科学技術コンテストへの参加

① 我が国からの国際科学技術コンテスト参加者数

平成 21 年度に予定している国際科学技術コンテストの参加者数 14 チーム 28 人

役員数 5 人

引率者数 3 人

② 国際科学技術コンテスト参加生徒選考方法

(実施内容、審査方法)

応募方法：ネットまたは Fax

対象：小学生・中学生・高校生

第一次選考（ノード大会） 3212名（1025チーム）参加（平成20年度）

全国36会場 約240名選抜 サッカー中心

2009年3月より4月

第二次選考（ブロック大会）全国8ブロック会場 120チーム選抜

サッカー、ダンス、レスキューチャレンジ実施

代表選抜（ロボカップジャパンオープン） 14チーム選抜

審査方法

サッカー：5チーム単位のリーグ戦を行い、勝ち点方式で上位2チームが決勝トーナメントへ進む。FIFA ワールドカップと同じ方式。各コートに主審と副審がついて審判する。

レスキュー：災害現場を模したフィールドで、いかに早く被災者を表す人型を発見できるかを競う。競技タイムと審判による障害物回避の得点で競う。

ダンス：最初にインタビューを行ってロボットの性能や企画内容をチェックする。パフォーマンスは5人の審査員が企画や振り付け、衣装、音楽などの項目ごとに得点をつける。

③ 大会開催地

平成21年度の大会開催地（国名・都市名） オーストリア グラーツ

④ 日程

平成21年度の国際大会開催日程

2009年6月29日—7月5日うちジュニア部門は6月29日—7月5日

(2) 国際科学技術コンテスト参加に向けた研修等学習の実施

① 世界大会参加者研修の実施

実施時期	5月末—6月中旬（予定）
実施会場	世界大会参加者所属ブロックまたは WEB
参加者数	世界大会出場者 14 チーム
実施のねらい	海外での常識と外国の人とのコミュニケーションのための語学研修。具体的には、電源や通貨、習慣、パーティ、試合やパドックなどケーススタディの形で実施。特にサッカー・レスキューは他国のチームとスーパーチームを形成し、協調性とチームワークを重んじる。こういう場で生きたコミュニケーション能力を研鑽するために、語学を中心とした実践的な研修を行う。

実施内容	英語講座 2.5 時間 ガイダンス 1.5 時間
実施体制	ロボカップジュニア運営委員、技術委員および英語講師

② 強化合宿の実施

実施時期	8 月中旬（予定）
実施会場	滋賀県立青年の城（予定）
参加者数	生徒児童 50 名
実施のねらい	次期国際大会のために強化選手を全国から 50 名募り、技術など本格的な指導を行う。
実施内容	世界大会出場者との懇談、技術的指導、コミュニケーション能力の育成、簡単な英会話など
実施体制	ロボカップジュニア運営委員会、各ブロック長、技術委員、メンターなど

9. 国際科学技術コンテストに対する国内選抜大会活動

(1) 国内選抜大会の実施

① 国内選抜大会への参加者数

国内選抜大会への参加者数 153 チーム

大会役員数 11 人

会場責任者数 1 人

② 国内選抜大会参加生徒選考方法

(実施内容、審査方法)

I. 応募方法：ネットまたは Fax（ノード大会）

II. 対象：小学生・中学生・高校生

ロボカップジャパンオープン 2009 大阪：平成 21 年 5 月 8-10 日

ジュニア部門は 9 日から 10 日、各ブロック大会の結果から 153 チームを選抜

第一次選考（ノード大会）：2008 年 11 月より 2009 年 3 月

全国 40 会場 約 600 チーム選抜

サッカー中心

第二次選考（ブロック大会）：2009 年 3 月

全国 15 ブロック 153 チーム名選抜

サッカー、ダンス、レスキューチャレンジ実施

III. 審査方法

サッカー：5チーム単位のリーグ戦を行い、勝ち点方式で上位2チームが決勝トーナメントへ進む。FIFA ワールドカップと同じ方式。各コートに主審と副審がついて審判する。

レスキュー：災害現場を模したフィールドで、いかに早く被災者を表す人型を発見できるかを競う。競技タイムと審判による障害物回避の得点で競う。

ダンス：最初にインタビューを行ってロボットの性能や企画内容をチェックする。パフォーマンスは5人の審査員が企画や振り付け、衣装、音楽などの項目ごとに得点をつける。

③ 大会開催地

大阪市 京セラドーム

④ 日程

2008年11月より2009年3月

第一次選考（ノード大会） 参加者 3200名（1025チーム） 全国40会場
サッカー中心

2007年3月より4月

第二次選考（ブロック大会） 全国8ブロック120チーム名選抜
サッカー、ダンス、レスキューチャレンジ実施

(2) 広報、普及活動について

① 募集の告知方法

チラシを作成。全国科学館・教育委員会・SSH校に配布

HPにて各種情報公開、申し込みも受け付ける。

学研HPなど他のHPよりリンク

② 普及DVDや普及書（問題集など）、トレーニングシステム等の制作

世界大会普及および審判講習の目的でDVD作成。

③ 説明・解説会やイベント等の開催など

(i) 普及体験教室の実施

実施時期	8月—3月
実施会場	全国10ヶ所
参加者数	40名×10ヶ所=400名
実施のねらい	ロボカップジュニアの普及、継続的なフォローアップ教室へ移行。
実施内容	サッカー・レスキューのロボット製作、模擬試合 審判の実地練習
実施体制	ロボカップジュニア運営委員会、各ブロック運営委員会

(ii) 審判講習会の実施

実施時期	8月 - 3月
実施会場	全国 10ヶ所
参加者数	100名程度
実施のねらい	指導者育成、新ブロック・ノード設立。 統一感のある公正な試合運営を目指す。
実施内容	映像コンテンツと実機を用いたケーススタディ
実施体制	ロボカップジュニア運営委員会、各ブロック運営委員会

10. 実施担当者名

(本件担当者) 役職 氏名 ジュニア渉外担当 北原 達正
住所 大津市大石東 3-11-15
電話番号 077-546-6034 (090-8384-7516)
FAX 番号 077-546-6034
E-mail kitahara@e-kagaku.com

11. 経理担当者名

東 ゆき 06-6376-2963 osaka@robocup.or.jp
住所 大阪市北区豊崎 3-20-1
特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会